



とよかわの

みつけた!



三河国府跡出土の羊形硯

白鳥町の三河総社周辺一体には、奈良・平安時代に三河国を治めた役所やその関連施設の遺跡である国府跡があります。平成12(2000)年に八幡町西赤土地内で行われた発掘調査の際、国府関連の建物跡付近で、8世紀半ばごろの大量の土器が捨てられたごみ穴ひつじがたが発見され、その中から羊形硯ひつじがたが出土しました。

羊形硯は、平城京跡(奈良県奈良市)や齋宮跡(三重県明和町)など全国で数点しか出土していない珍しいもので、三河国府跡で出土した硯は、平城京跡で出土したものとよく似た丁寧な作りが特徴です。ヒツジの顔部分のみ残存するものですが、本来は胴体部に墨をするところがありました。当時、ヒツジは日本では見られない動物であり、都から赴任した国司など限られた階層の人しか使用できない硯だったのかもしれませんが。

現在、この羊形硯は、三河天平の里資料館に展示されています。来年の干支であるヒツジのほほ笑ましい表情を見ながら、千年を越えるいにしへのロマンを感じてみてはいかがでしょうか。

